

# 月刊やちまなこ

2015.3.15 発行

No. 208

## 3月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



### 湿原散歩

今年の冬は道東地方を中心に大荒れの日が続き、交通機関や生活に甚大なる被害を及ぼした。今月に入り、積った雪も徐々に解け始め、白一色だった湖に水面が顔を出し、オオハクチョウやヒシクイ、アオサギなどが羽を休めている。眩い空に向かって「どうか彼岸荒れは小規模に」と願い叶うなら御の字なのだが・・・。

## コッタロ川と湿原のほとりから

### 177 3月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住. 中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

“雛祭丹頂子別れ完了す”。2月の子別れシーズン中に卒業出来たのは第2コツ&タロの20羽目のみで2月13日でした。一方第1コツ&タロの22羽目はなかなか親離れせず、上手に逃げ隠れし乍ら延々と居続けるのにとことん業を煮やしたみ親(タロ)が意を決して追い払いに成功したのですが、自身も帰還することなく“子別れし親ヅル風と共に消ゆ”となったのです。短い周期で多発し、暴風雪を重ね続ける爆弾低気圧によって、2月末日迄の標茶町の積雪は160cmを記録。3月3日は折しも警報注意報目白押しで、大雨やミズレ混じりの日替わりメニューの目まぐるしさ。至る所で立木は折れ、さらに風倒木の散乱著しい湿原での子別れは、深雪と吹き溜まりに覆われて、どこに危険が潜んでいるか解らず、非常な困難が伴ったことでしょう。案の定アクシデント発生!3日, 4日, 5日, 6日と主の居なくなった庭池を日頃から虎視眈眈と、他の双番4羽の丹頂が伺っていて、そ〜れ!!とばかり侵入してきたからたまらない。♂早入り乱れての大バトルの喧しいこと喧しいこと。人間が出る幕ではないと静観しつつも、夕暮れ時には各々の罫へ帰る他所ヅルが居なくなったのを見計らって残された♀に餌の魚を入れてやること4晩が過ぎ5日目の朝9時15分、突然の鳴き交わしに外へ出て見るとあ〜ら不思議!王者(タロ)が生還しているではありませんか。悪夢から覚めた一瞬、我と我眼を疑い乍らも降り立ったみは右足の付け根を傷しており、そこからの出血が乾いた血糊となって羽毛を汚しているのも痛々しく、動けなかったであろう4日間を物語っているのがわかりましょう?こちらの心配顔を見て、大きく翼を広げ、羽ばたいて見せた後、♀に求愛ダンスを仕掛けるなどして健気にも“ほら、もう大丈夫です”と告げているようです。翌日からは交尾も成功させて、一件落着。するとどうでしょう。あれほど激しかった他所ヅルの争いは勿論ピタリと止んで、近寄らず、自然の掟の盤石さと、野生の強靭さを見せつけられた思いで、戻ってきた平和に万万歳!!

ところでポカポカ陽気の空を見上げれば北帰行の白鳥さんの群が、又庭の6つのバードテーブルに目を転ずれば8羽の赤ゲラと番の鴨、ツグミ、花鳥(アトリ)に加えて常連客多数が屯して賑わい、静寂そのものの室内では、久々にショパンのノクターンを聴き乍ら、ほっこりとした時の流れを楽しんでおります。



コミミズクは冬越しのために日本に渡ってくる中型のフクロウです。一年を通して見られるお馴染みのエゾフクロウに比べると眼光鋭く精悍な感じがするのは、黄色の目の周りが黒く縁取りされているせいでしょうか。写真はコッタロ湿原の道路沿いの木にとまっていたところです。見かける機会は少ないものの、草原性のコミミズクは日中も活動するため、湿原を飛ぶ姿や樹上で首をぐるりと回して辺りを見渡している様子が見られました。



春を待つフィールドを散策しました。



自然ふれあい行事「釧路湿原フィールドウォッチング」を7日、茅沼蝶の森周辺で開催しました。例年、シラルトロ湖もコースに入っていましたが、気温も高く、氷の厚さも不安定な場所があり、今回は止めて散策しました。大雪の影響で樹木も倒れた個所が多く、近くには深雪に苦戦しながら歩いたような動物たちの足跡があり、樹木の冬芽では、ハンノキの雄花が少し伸びたもの、樹液の出ているイタヤカエデなどがありました。また、縄文時代の竪穴住居跡や炭窯跡など先人たちの生活していた場所を見ながら、明日で運転終了をするSL冬の湿原号を見送って行事を終えました。そのあと茅沼憩の家の温泉に浸かり、汗を流しました。参加者の皆さん、オツカレサマでした。

ネムネムのとうろうろうろ日記 Vol.54「お別れは突然に」

突然ですが3月いっぱいまで郷土館を退職することになりました。9年間の郷土館生活で「うろうろ日記」が、書いていて一番楽しい原稿でした。字数とアホなネタが増える一方でしたが、職場も編集の方も何もいわず、自由に書かせてもらえたのはありがたかったです。

スズメバチにまとわりつかれたVol.32「黒は女を美しく見せる？」は、反響が大きかったです。

「イラストがよく似てる。」「大胆。」「自虐ネタ？」と仕事先でいわれましたし、突然郷土館に現れ「うろうろ日記、読んでいますから！」とだけ行って、笑って去っていったお客さんもいました。アオサギの死体を拾い集めるVol.37「死体にまつわるエトセトラ」は、目の前でガイドさんが解説に使っていて驚きました。私の名札を見た来館者が突然「うろうろ日記の方ですよね？」と声をかけてくれたのも嬉しかったです。調子に乗って、実家の両親にネットで公開されている「やちまなこ」のサイトを教えたら、原稿のダメだしが入るようになり、これはちょっと後悔しました。

またこんな楽しい原稿を書く機会があるといいなと思っています。4月からは浜中町にある霧多布湿原センターに勤務します。良かったら遊びに来て下さいね。辻 ねむ（標茶町郷土館学芸員）

3がつ 6にち	ばしょ とうろ
---------	---------



大雪続きで積雪 70cm。あの奥の倉庫の中を片付けなくてはならないのに、たどり着けるだろうか・・・。

